

123. 進行性疾患に対応した住環境整備評価提案シートの作成とその効果検証

横浜市総合リハビリテーションセンター地域リハビリテーション部研究開発課
担当課長

西村 顕

概要

本研究は、筋萎縮性側索硬化症（ALS）をはじめとする進行性疾患のある人の在宅生活の質向上を目的に、住環境整備を体系的に支援する「住環境整備評価シート（Web アプリ）」の作成とその効果検証を行った。

過去3年間に蓄積されたALS罹患者446名の相談記録を分析し、その結果を踏まえて臨床経験20年以上の熟練した理学療法士・作業療法士へのヒアリングを行うことで、症状進行に伴う生活上の困りごとや住環境整備ニーズの特徴を整理した。

これらの知見を基に、本人・家族・支援者が共通理解を持ちながら検討できる住環境整備評価シート（Web アプリ）を作成した。

本Webアプリは、ユーザー評価の結果、支援内容の可視化や当事者・家族・支援者間の対話促進に有用であることが確認された。

一方で、疾患受容の段階差や個性へのさらなる対応が今後の課題として示唆された。

本助成金により、相談記録分析と専門職の知見を統合したWebアプリの開発および検証を実施することができ、全国的な活用に向けた基盤整備に大きく寄与した。

背景および目的

介護保険制度の施行以降、高齢者を対象とした住宅改修や福祉用具導入は全国的に普及し、一定の標準化が図られてきた。一方、筋萎縮性側索硬化症（ALS）をはじめとする進行性疾患のある人に対する住環境整備は、症状の進行速度や個人差が大きく、高齢者とは異なる視点での支援が求められる。進行性疾患では、身体機能の低下に先行した過剰な整備や、逆に対応の遅れによる生活上の不利益が生じやすく、支援者側にも高い判断力と経験が必要とされる。

横浜市総合リハビリテーションセンターでは、長年にわたり進行性疾患のある人の住環境整備支援を行ってきたが、支援内容や判断プロセスは個々の専門職の経験に依存する側面が大きかった。そこで本研究では、過去の相談実績を体系的に分析し、熟練専門職の知見を統合することで、本人・家族・支援者が共通理解を持ちながら検討できる「住環境整備評価シート（Web アプリ）」を作成し、その有用性を検証することを目的とした。

方法

本研究では、2021年度から2023年度までの3年間に横浜市総合リハビリテーションセンターに寄せられた在宅生活支援に関する相談記録のうち、ALS罹患者446名分を対象として後方視的分析を行った。相談記録から、日常生活動作（ADL）および生活関連動作（APDL）に関する相談内容を抽出し、重症度別に整理することで、症状進行に伴う困りごとの変化や住環境整備ニーズの特徴を把握した。

さらに、進行性疾患の住環境整備支援に長年従事してきた熟練の理学療法士・作業療法士へのヒアリングを実施し、相談記録分析では捉えきれない判断の視点や支援の工夫について整理した。これらの結果を統合し、本人・家族・支援者が段階的に状況を確認しながら検討できる住環境整備評価シートを Web アプリとして構築した。



図 1. 住環境整備評価シート（Web アプリ）の画面

イラストを用いて直観的に分かりやすいデザインを心掛けた

作成した Web アプリは、試行的に臨床現場で活用し、本人・家族・支援者を対象としたアンケート調査により、操作性、有用性、対話促進効果等について評価を行った。



図 2. web アプリ評価時の様子

本研究は、社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認 No.yrs0604）。

結果とまとめ

相談記録分析の結果、ALS 罹患者の住環境整備ニーズは重症度により大きく異なり、軽度から中等度では姿勢や食事、ホームエクササイズ等の相談が多く、重症化に伴いコミュニケーション支援の重要性が顕著になることが明らかとなった。また、依頼時点では認識されていなかった課題が、専門職の訪問評価を通じて顕在化するケースも多く、進行性疾患特有の支援の難しさが確認された。

これらの知見と熟練専門職のヒアリング結果を反映して作成した住環境整備評価シート（Web アプリ）は、支援内容の可視化や、本人・家族・支援者間の共通理解を促進する点で有用であることが、試行的評価から示された。一方で、疾患受容の段階差や個性へのさらなる配慮、継続的な更新の必要性といった課題も明らかとなった。

本研究により、進行性疾患の住環境整備支援における知見を体系化し、実践に活用可能な Web アプリとして提示することができた。本助成金により、相談記録の分析からツール開発・検証までを一体的に実施できたことは大きな成果であり、今後は全国的な活用と改良を通じて、進行性疾患のある人の在宅生活の質向上に寄与することが期待される。

完成した Web アプリ

ALS 患者の暮らしの工夫

<https://alstips.arch-yrf.com/>



図 3. ALS 患者の暮らしの工夫（QR コード）

（完）

発表論文

- 1) 西村顕、阪東美智子、野口祐子：進行性疾患に対応した住環境整備に関する研究 ALS 罹患者 446 人の重症度別にみた相談内容の傾向、2025 年度日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）、pp.265-266、2025 年 9 月